

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101532		
法人名	医療法人祐和会		
事業所名	グループホーム アンジュ 2階つばきユニット		
所在地	〒690-0017 松江市西津田4丁目7番18号		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成21年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://lllp://kouinyou-c.tukushii-shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3270101532&amp;SC">http://lllp://kouinyou-c.tukushii-shimane.or.jp/kajigosin/infomationPublic.do?LCD=3270101532&amp;SC</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	島根県松江市白潟本町43番地

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すみれユニットに同じく
-------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の社会的役割、使命を認識した上で、アンジュ理念を作り実践と共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域町内会に入り、地域で行われる敬老会等に積極的に参加したり、防災訓練に参加してもらったり、日常的なつながりができるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の場として積極的に福祉専門学校生の実習、中学生の職場体験学習等を受け入れている。地域の方の相談があればいつでも受け入れられる体制にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者、職員の活動報告を行っている。また、研修報告や事例検討発表会等を行い、実際に即した意見や要望を伺うようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、訪問調査等で一人ひとりの取組が具体的に伝わるようにしている。広報誌を担当者に配布している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を作り、「身体拘束ゼロへの手引き」を中心に研修会を行ったり、アンケートをとって職員の意識レベルに差異がないか注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を作り、何気ない声かけ等により気づかない虐待が起こっていないか、自分の言動を振り返るよう勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要と思われる事例や家族から相談されることもないため、職員全体の理解力は薄いですが、勉強会等計画し、講習には参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の立場にたって、不安が残らないように説明することに心がけ、契約書、重要事項説明書は契約前に持ち帰り熟読していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自治会を設け、要望や希望、苦情を十分に聞き取るようにしている。家族には面会時様子を伝えると共に、意見要望を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議、夜勤者会議、管理者・主任会議等々様々な場でそれぞれの立場からの意見が出されるよう工夫している。云いにくい意見は提案・要望書を用意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に毎月出席したり、各ユニットを訪問し気軽に職員に声をかけ、コミュニケーションをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けた支援体制を作り、取得後は給与に反映されるシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会に全ての職員が参加するようし、同業者同士のコミュニケーション、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、面談で本人、家族又は関係するケアマネージャーから十分に情報交換をしている。また、お試し入所や通所利用をして頂きグループホームの雰囲気を感じてもらい意見を伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家庭での面談や、事業所見学时に家族の抱える心配、問題点をさりげなく伺うようにし、具体的な取組方法共に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に際して、本人・家族の不安が強い場合は、入居日の変更、短時間のデイサービス利用等柔軟な対応しながら安心してサービス利用につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、本人の希望や要望、心理的な変化を察知しながら支援するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族を含めた、常日頃の思いや心底にある感情を慮って、共に支えあう協力関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の来訪時には落ち着いて話ができるようお茶を出すなど雰囲気作りに努め、来訪に対し職員も感謝するなど訪問しやすい環境づくりをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等利用者同士のコミュニケーションの場を確保している。また、利用者自治会を設け自由な雰囲気意見交換ができる場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者それぞれの必要性に応じて、関係機関への情報提供や家族への相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や意向を確認することが困難な場合、家族、知人からこれまでの生活の様子や好みを伺い、こよう時にはこんなサービスを期待されているのではと想像力を働かせ、画一的な支援にならないよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報に固執することなく、これまでの本人の生活の仕方がどうだったか、少しずつ積み重ねて行き、状態像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの中で培われきた趣味や特技を、生活の場面でそれとなく確かめる形でできる力の発見、実践に結びつける工夫をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には必ず、本人、家族の要望や意見を聞きだし、ユニットでのカンファレンス、アセスメントを行い、介護計画を作成している。心理・行動症状に変化があれば都度課題を変更・追加している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化は個別ケア記録に詳細を記入し、職員は情報の共有、活用に気をつけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心理・行動症状、身体的変化が生じる等新たな課題ができた場合、必要なサービスがすぐに提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域包括支援センター職員からのフォーマルな情報、町内会長や民生委員から身近なボランティア情報等の助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医がいる場合は継続して主治医となってもらい、受診は職員が常に援助することにより、主治医との信頼関係も出来上がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見、早期報告を心がけ、看護師に対しては些細なことも全て報告するようにしている。それにより、専門医の受診がスムーズに行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所では入院された場合、3ヶ月間の猶予期間を設けており、医療機関も本人家族も安心して治療に専念できる体制ある。入院中は定期的に面会に行き、関係者からの情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化及び終末期に対する当事業所のできることを、できないことを十分に説明している。また、個別の状況に応じてできる限り、本人、家族の要望を聞き、主治医の意見との調整を計りながら希望に沿えるよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間緊急時の対応マニュアルを基本に事業所近辺の職員がすぐに応援出動できる体制を作り、救急対応の講習等に順次参加させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は火災、地震に対応した訓練を毎月行い。町内防災部、周辺事業所とも協定を結びいざという時の支援体制は整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の何気ない声かけや行動が、利用者の自尊心を傷つけたり、プライバシー保護義務に抵触していないか、勉強会を行ったり、アンケート調査等をして自覚を促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分でできることは継続してできるよう支援し、本人の意向が自発的に生活の場面で活かせる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、これにこだわることなく、その日の気分やペースで一日が送られるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意見を尊重して。季節や気温も考慮しながら、プライドを傷つけないようさりげなくアドバイスもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部給食を利用しているが1週間に1回は利用者と共に、畑で取れた野菜等を使い食事作りに参加してもらっている。また、おしぼり巻き、台拭き等事前事後の作業もできるだけ参加してもらうようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食に対する嗜好や要望は個別に尋ねたり、利用者自治会で必ず確認している。また、個々の咀嚼嚥下能力に適した食形態での提供に努め、雰囲気や介助方法も都度検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年度は「食べる機能のコンサルティング事業」を受け入れ、歯科医師を中心としたチームからのアドバイスを全利用者に対して行い、その実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけることのないように、誘いかけ、排泄援助時における支援の方法には気を使っている。個別の心理、身体的状況に応じて現在最適と思われる排泄用具、物品を使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師の指導助言、個々の嗜好や生活の様子から便秘、下痢にならないよう予防し、排便表等で管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に沿うように意向を伺って入浴を実施している。異性の援助を嫌う方には、同性職員の援助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが出ないように休憩を促したり、安心して眠れるよう仮眠の場所を変えるなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をよく読み、用法、用量、副作用などを覚えるようにしている。処方に変化があった場合は、様子観察を行い、変調があった場合、看護師、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味等を考慮して、気分転換や役割意識もてる活動の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り一人ひとりの希望に沿えるように買物等の外出支援を行っている。また、病院受診も普通の日常生活として捉え、受診援助のほとんどは職員が行い、帰りに商店によるなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談のもと、本人所持か可能な方には自己管理をしてもらっている。また事業所で管理する場合は収支状況を毎月報告し買物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話を使えるようにしている。手紙の代筆、投函も希望に応じて行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰かが花を持参し常に季節の花が活けてある。周辺は静かで混乱を招くようなこともなく、採光もよく落ち着いた雰囲気の中で生活できるものと思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で使用できる共有空間は和室しかないが、仲の良い利用者同士がおしゃべりできるよう席の配置など留意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたもの、使い勝手の良いものを置いて、本人と相談しながら生活しやすい空間になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、自分でできることは継続してできるように、手すり等生活環境の改善に取り組んでいる。		